





























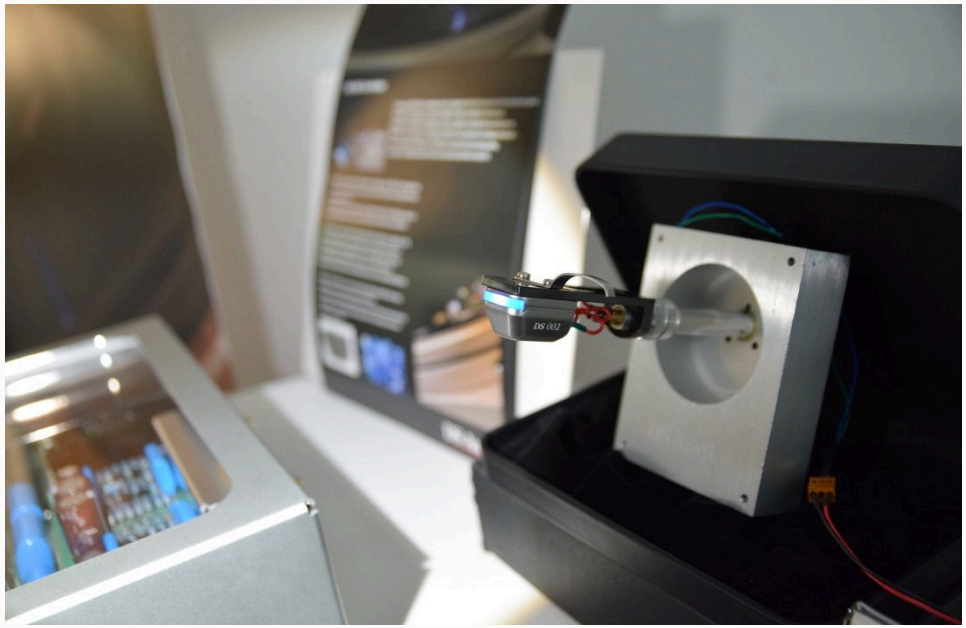


DS Audio DS Audio Story No.02

なぜ回路図を公開したのか

光カートリッジ対応フォノイコライザー　18ブランド・26機種（2026年11月現在）





ユニークなカートリッジからポピュラーなカートリッジにするために

光カートリッジは、専用のイコライザーがないと鳴りません。MM/MC用のフォノイコライザーにつないでも音は出ません。だから光カートリッジを買ってくださったお客様は、イコライザーも必ずDS Audioのものを購入する必要がありました。当時、光カートリッジ用のイコライザーを作っている会社は、世界でDS Audioしかなかったからです。

カートリッジとイコライザーがセットで売れるので、商売としては悪くない話です。でも私は、この状況にずっと引っかかっていました。このままでは、光カートリッジはDS Audioだけのもので終わってしまう。四十年前に東芝やシャープが作り、やがて消えていった光電式カートリッジと、同じ道をたどることになります。

それをはっきり自覚したのは、ミュンヘンのハイエンドショーでした。会場を一通り歩いてみて、気づいたんです。光カートリッジが鳴っているのは、DS Audioの代理店のブースだけでした。あるメーカーの方は、個人的には光カートリッジが大好きで、MCより良いとまで言ってくれていました。それでも、その方のブースで鳴っていたのはMCでした。自分たちのフォノイコライザーを売るには、そうするしかないからです。

これは放っておいても、絶対に変わらない。そう考えて、光カートリッジ用イコライザーの回路図をウェブで公開することにしました。

ミュンヘン・ハイエンド。DSのブースに展示したDS002。

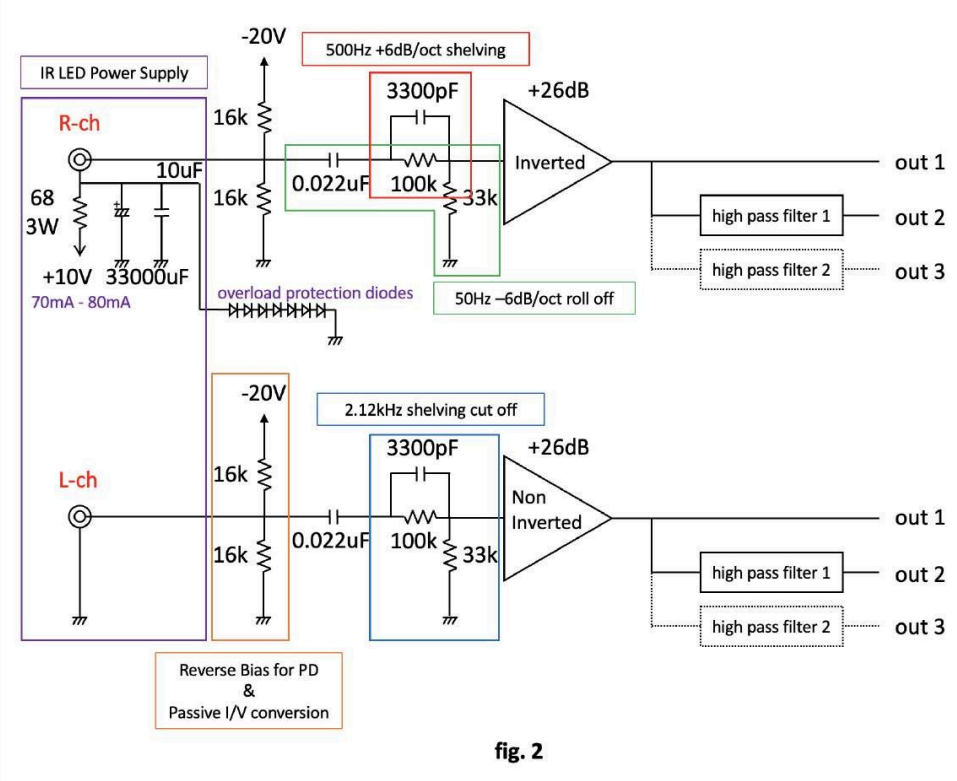


fig. 2

クレイジーだ

当初は、反対する声も多くありました。代理店からも販売店からも、「クレイジーだ」「せっかくセットで売れているのに、イコライザーが売れなくなる」「自分でライバルを増やしてどうするんだ」と言われました。言っていることは、もっともです。

ただ、私がやりたいのは、光カートリッジを「ユニークな」カートリッジから「ポピュラーな」カートリッジにすることでした。MM、MCに続く三つ目の選択肢として、普通に選んでもらえるカートリッジです。DS Audio一社でカートリッジもイコライザーも作っている限り、光カートリッジは珍しいもので終わります。お客様がイコライザーを選べなければ、ポピュラーにはなれません。だから、反対されてもやると決めました。今振り返ると、DS Audioを始めてから下してきた判断の中で、これが一番良い判断でした。

また、対応イコライザーを作りたいというメーカーの方からよく聞かれるのが、「ライセンスフィーはいくらですか」という質問です。答えはゼロです。この活動の目的は、ライセンス収入を得ることではありません。光カートリッジをユニークなものからポピュラーなものにするという、夢のためにやっています。そのためには、世界中に光カートリッジの仲間の輪を広げる必要があります。

公開している光カートリッジ用フォノイコライザーの回路例。



最初の仲間と、次の仲間を待った三年

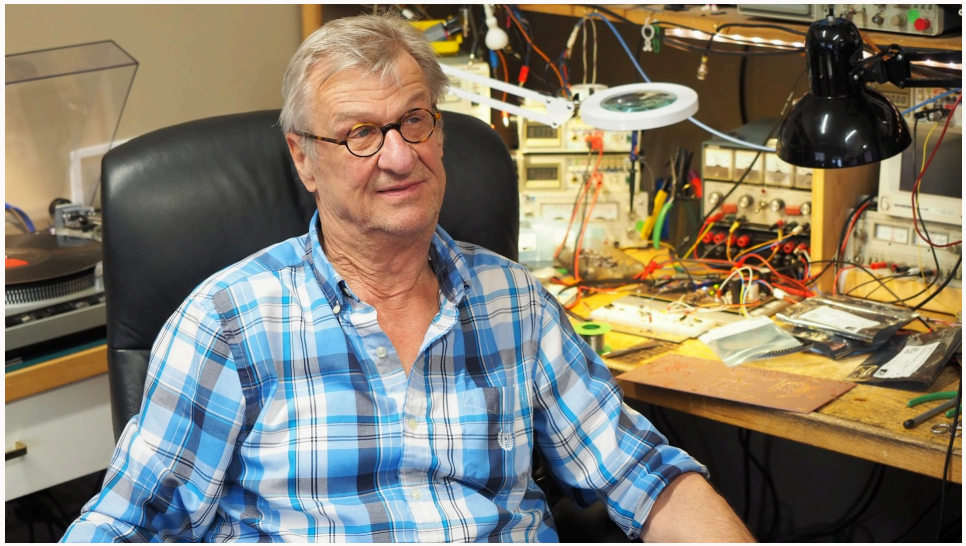
最初に手を挙げてくれたのは、SOULNOTEでした。SOULNOTEの営業の方が「うちのフォノイコライザーに光カートリッジの入力を入れたい」と話を持ってきてくださり、それがE-2になりました。MMとMCに加えて光カートリッジの入力を備えた、DS Audio以外の会社による初めての製品です。

E-2で光カートリッジを聴いてみると、同じカートリッジなのに、うちのイコライザーとはまったく違う世界観を表現していました。いろいろなメーカーが、いろいろなやり方で光カートリッジの良さを引き出してくれれば、光カートリッジの面白さはもっと広がるはずだ。そう考えて回路図を公開したのですが、E-2を聴いて、その考えは間違っていなかったと確信しました。

一社が出れば、二社目はすぐだろう。そう考えていました。ところが、そうはなりませんでした。問い合わせはときどき来ます。でも、製品になるところまでは、なかなか行きません。ここから広がっていく未来は、正直あまり想像できていませんでした。

理由は分かっていました。光カートリッジは、DS Audioしか作っていないからです。MCカートリッジなら、一社がなくなっても、他のメーカーのカートリッジを使い続けられます。でも光カートリッジの場合、もしDS Audioが光カートリッジの製造をやめたら、将来的に対応イコライザーの光カートリッジ入力が使えなくなってしまうかもしれません。自分がアンプメーカーでも、そんな仕様の製品にはなかなか踏み込めません。

SOULNOTE E-2。



ゲームチェンジャーだ

2018年の秋、ウェブの問い合わせフォームに一通のメールが届きました。差出人は、Ed Meitnerが率いるEMM Labs。フォノイコライザーに光カートリッジ用の入力を付けようと考えているので、開発用にカートリッジを一つ購入できないか、という内容でした。

すぐにカートリッジを一つ、カナダに送りました。12月15日、Ed本人からメールが届きました。

> 昨夜、初めて光カートリッジを聴いた。ベンチに実験基板を組んだだけの、理想とは程遠いセットアップだ。それでも、聴こえた音はただ驚くほかなかった。期待をはるかに超えていた。若い頃のLPを引っ張り出して、素晴らしい時間を過ごした。おめでとう。これはゲームチェンジャーだ。
>
> — Ed Meitner

業界のレジェンドと言われる人に、認めてもらえた。そんなことは夢にも思っていなかったので、素直にとても嬉しかったです。

Ed Meitner。カルガリーの作業机で。



「光カートリッジを一度聴いたら、MM/MCには戻れない」

しばらくして、EMMから光カートリッジ専用のフォノイコライザーを出したいという話を、Skypeで受けました。Edの考えはこうです。光カートリッジを一度聴いたら、MM/MCにはもう戻れない。一度聴いた人はMM/MCの入力を使わなくなるのだから、そこにコストや開発費、基板のスペースを使うのはやめて、光カートリッジ専用のイコライザーにしたい。

DS Audioの直接のライバルになる製品なので、私たちへの配慮もあったのだと思います。うちとしては全然構いませんでした。競合だとは思っていませんし、光カートリッジを一緒に盛り上げてくれる仲間が増えるのは、ありがたいことです。

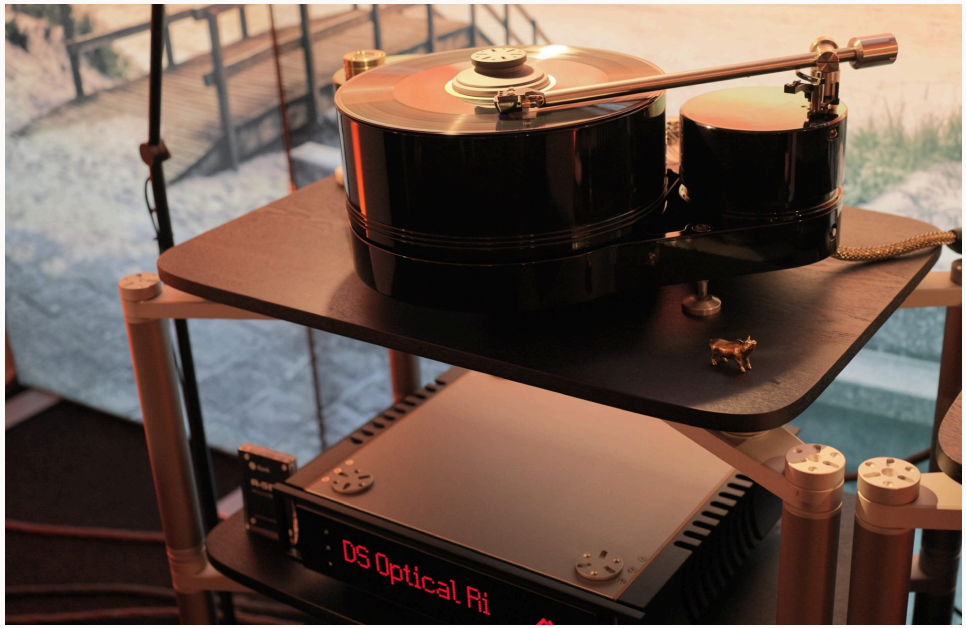
ただ、本当にやるんですか、とは聞きました。世の中のお客様の圧倒的多数は、MMかMCを使っています。MM/MCの入力がなければ、その人たちは最初からお客様になりません。ビジネスとして大丈夫なのか。MM/MCの入力は付けた方がいいのではないか。今聞かれても、同じことを言います。

それでも、Edの考えは変わりませんでした。光カートリッジのことを、そこまで信じてくれている。感動しました。

2020年、EMM LabsはDS-EQ1を発売しました。MMとMCの入力は、付いていません。

EMM Labs DS-EQ1。



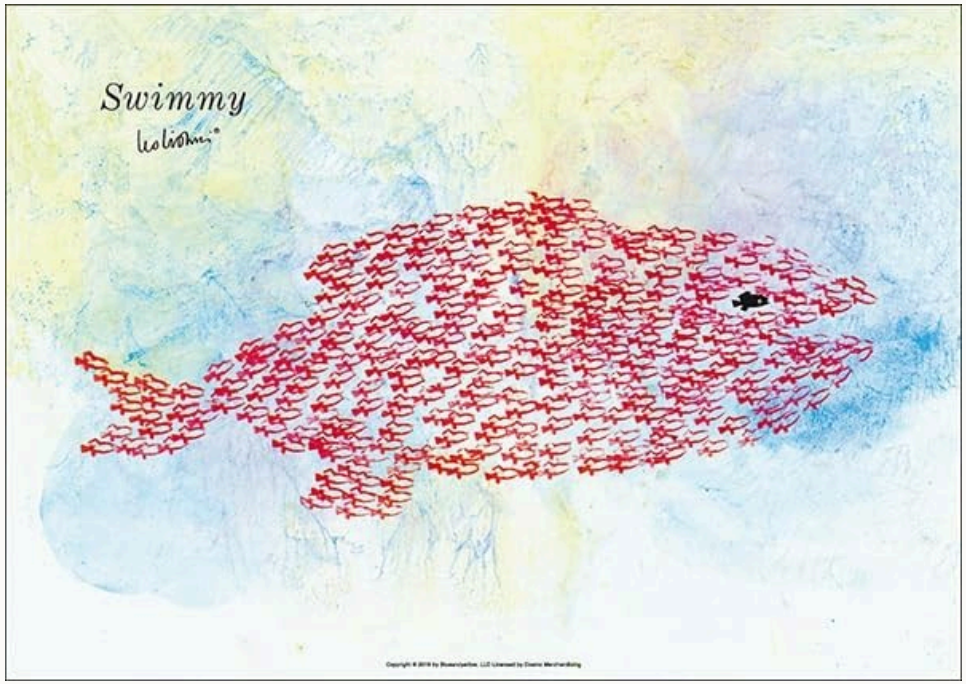


足し算から掛け算へ

今年のウィーンのハイエンドでは、十四の部屋でDS Audioのカートリッジが鳴っていました。DS Audioとは別のメーカーのブースで、そのメーカーの方が、自分の言葉で光カートリッジの良さを語ってくれていました。ミュンヘンで、光カートリッジが鳴っているのはDSの代理店のブースだけだと気づいた日から、十年近く経ちました。

他社がいなかった頃は、ずっと足し算でした。DS Audioと、その代理店と販売店だけが、一生懸命に光カートリッジの良さを伝える。少しずつ積み上がってはいきますが、足し算の域は出ません。それが、仲間が増えて掛け算になりました。SOULNOTEが対応機を出せば、SOULNOTEとその代理店と販売店が光カートリッジを語ってくれます。ESOTERICなら、ESOTERICとその代理店と販売店が語ってくれます。今は18ブランド、26機種の対応製品があり、それぞれのブランドの後ろに代理店と販売店がいます。足し算から掛け算へ。この変化は、とても大きいです。もちろん、最初の頃から光カートリッジを信じて、一緒に広めてくれた代理店や販売店がいなければ、今のDS Audioはありません。

HIGH END Vienna 2026。上はMAVIS（ベトナム）、下はAudio Group Denmarkの部屋。どちらもDS Audioのカートリッジが鳴っている。



スイミー

小学生の頃に読んだ絵本に、スイミーという小さな黒い魚の話があります。小さな魚たちが集まって、一匹の大きな魚のかたちになって泳ぐ話です。子どもが生まれてからは、読んで聞かせたこともあります。

もし回路図を公開せず、DS Audioだけで光カートリッジをやっていたら、光カートリッジはずっと小魚のままだったと思います。今はあの頃よりだいぶ大きな魚になりました。

とはいえ、まだまだこれからです。いつか、光カートリッジが珍しいものではなく、MMやMCと同じように当たり前に選ばれる日が来る。世界中の仲間と一緒に、そんな日をつくりたいと本気で思っています。

光カートリッジ対応製品に興味のあるメーカーの方がいらっしゃいましたら、ぜひ声をかけてください。

青柳哲秋

DS Audio 代表

DS Audio

『スイミー』レオ・レオニ 作、谷川俊太郎 訳（好学社）

ご感想やご質問は ds-audio.biz/contact までお寄せください。

DS Audio ds-audio.biz

